

第1章 計画の目的等

1 計画の目的

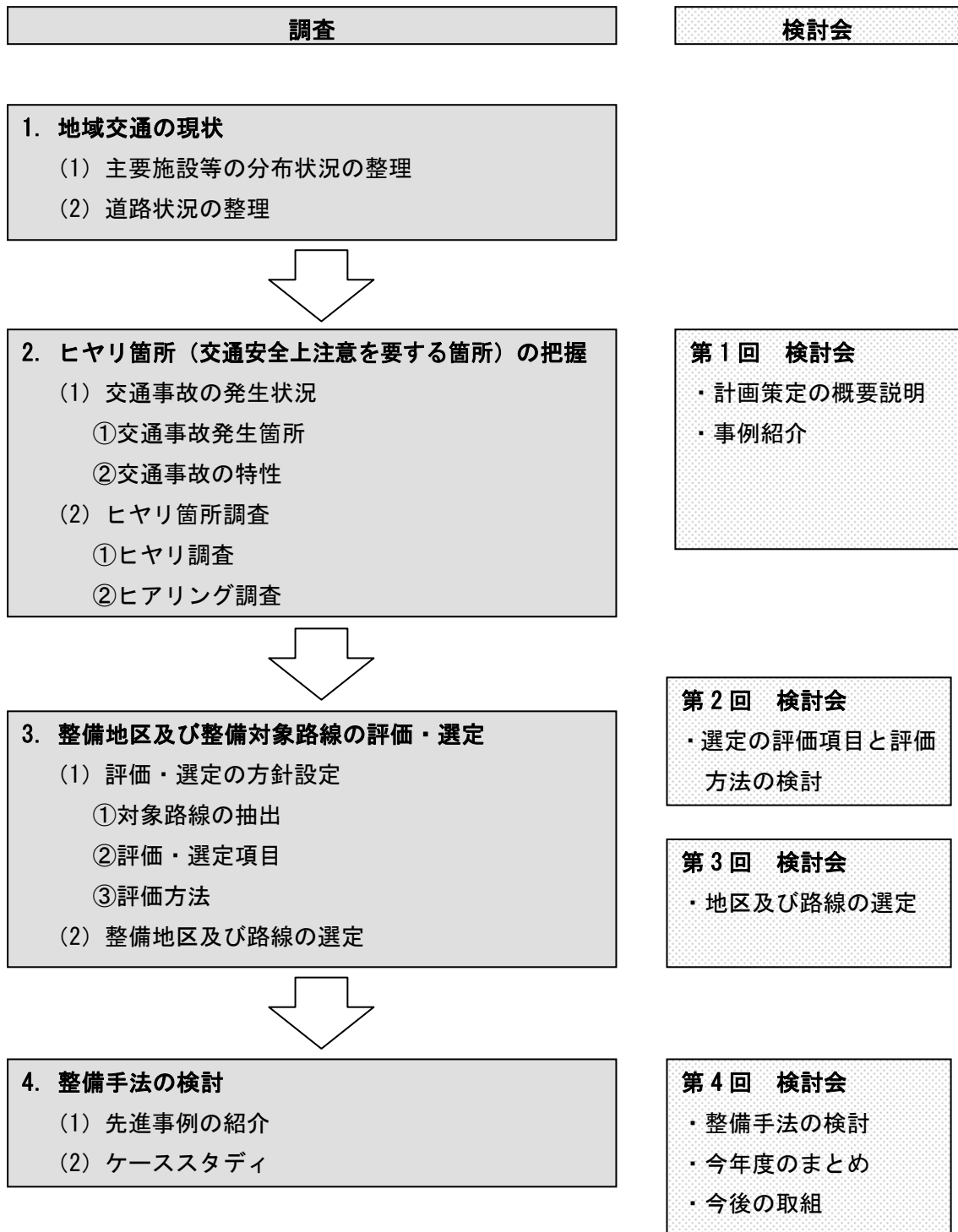
道路は、かつて交通のインフラであると同時に、生活のにぎわいをもった空間であり、子どもの遊び場でもあった。しかし、現在では、徒歩中心のにぎわい空間から自動車中心の移動空間へと移り変わり、最も身近な道路であるべき生活道路が、幹線道路から流入する通過交通により、交通事故の多発する危険な空間へと変移している。

そこで、区では、区内全域にコミュニティ道路整備事業を推進し、人と車の調和を図るとともに、歩行者等が安全かつ安心して利用できる道路環境の整備を重点的に行っていくこととした。

本計画は、区道における道路環境等の現状を把握・整理するとともに、ヒヤリ箇所等を抽出し、地区ごとに評価することで、コミュニティ道路整備を推進すべき地区や路線の選定を行うことを目的とする。

2 計画フロー

計画は、以下の流れで実施し、学識経験者、区民の代表（町会連合会代表、小学校PTA連合会代表）、所轄警察で構成する「文京区コミュニティ道路整備検討会」において審議した。



3 計画の概要

計画の概要を以下に整理する。

1) 区道の現状

既往報告書、行政資料、文献等を活用し、次の項目について整理を行った。

(1) 主要施設等の分布状況

- ①教育施設（保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学、特別支援学校）
- ②病院・福祉施設
- ③その他の公共施設、公園
- ④旅客施設（地下鉄駅、バス停）

(2) 道路状況

- ①道路現況（平均幅員、延長、面積、歩道整備率等）
- ②通学路
- ③バリアフリー化実施状況
- ④道路ネットワーク（他分野計画等との関係）
- ⑤交通規制（スクールゾーン）

2) ヒヤリ箇所（交通安全上注意を要する箇所）

ヒヤリ箇所を把握するため、次の調査を行った。

(1) 交通事故の発生状況

・警察の交通事故データを活用し、交通事故発生箇所、交通事故の特性を整理し、分析を行った。

- ①交通事故発生箇所
- ②交通事故特性

(2) ヒヤリ調査

・学校関係者に対するアンケート調査により、以下の項目を整理した。

- ①ヒヤリ箇所（要注意な交差点等）
- ②要注意路線（通過交通が多い道路）

(3) ヒアリング調査

・区職員及び警察関係者に対してヒアリング調査を行い、以下の項目を整理した。

- ①ヒヤリ箇所（要注意な交差点等）
- ②要注意路線（通過交通が多い道路等）

3) 地区及び路線の評価・選定

(1) 評価・選定の方針

(ア) 対象路線の抽出

- ・道路現況（平均幅員等）とヒヤリ箇所の調査結果を踏まえ、対象路線の抽出を行った。

(イ) 評価項目の設定

- ・優先度を評価するため、評価項目を設定した。

①路線に関する評価項目：整備効果、道路の位置付け、利用度、危険度、地元意向

②地区に関する評価項目：路線評価点、利用度、危険度

(ウ) 評価方針

- ・評価項目に基づく評価方法及び各評価項目に対する重み付けの考え方を検討した。

(2) 地区及び路線の選定

- ・評価方法に基づき、整備の優先度を評価し、地区及び路線の選定を行った。

4 地区の区分

地区の区分に当たっては、都市計画マスタープランの道路・交通ネットワーク整備方針において、主要幹線道路、生活幹線道路（重点路線）、生活幹線道路に位置付けられた、国道・都道等の幹線道路により、区内を22地区に区分した。次頁に地区の区分図を示す。



図 1-1 道路・交通ネットワーク整備方針（出典：文京区都市計画マスタープラン）

ただし、区の外周部において、幹線道路によって区分される小規模なエリアが発生するが、これらを単独の地区として面的整備を実施することは現実的ではないことから、幹線道路を挟んだ隣接地域と一体的に取り組む地域として、隣接地域に含むこととした。

地区の区分図

